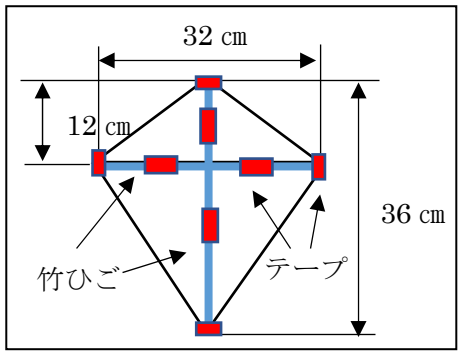
㉓ 連凧（れんだこ）作り



＜凧の寸法・構造＞

1　子どもたちに伝えたいこと
- 身近なもので、自分で遊び道具を作り楽しむ経験をする。
- 凧（たこ）が風に乗ってあがる仕組みを知る。

2　実施時期：冬季（１２月～２月）、お正月の遊びの１つ
3　実施場所：作製は室内、あげる場所は校庭や近くの広場・河原
4　対象学年：１～４学年向き
5　関連教科：図工、理科、生活科、総合
6　時数：１～2 時限（3･4 学年は１時限でも可能）
7　事前準備（児童１人分＝連凧２つ分）
- 河川・公園管理者への申請（必要な場合）
- 材料の準備：竹ひご（φ１．８mm×３６ｃmを４本）、凧連結用のたこ糸（１mを２本）、揚げ糸用のたこ糸（約１０mを１本、持ち手（厚紙）に巻いておく）、凧のしっぽ（新聞紙、約４ｃm×１mを２本）、障子紙（４０ｃm×３５ｃm程度を２枚）
- 凧の形に切った厚い型紙の作成（１～２班に１枚）

8　当日
（１）　準備する材料や道具（事前準備のもの以外に）
学校：材料、型紙、新聞紙、はさみ、セロテープ（１８mm幅以上が良い）、鉛筆または名前ペン、クレヨン（色マジック、ポスカでも良い）
どんぐりクラブ：連凧の作り方の図（パネル）

（２）　授業の流れ
①　あいさつ
②　作り方の説明・作製時の注意事項
- 連凧のサンプルを提示して、作り方を図と材料で説明する

③　作業
- 障子紙に型紙をあて、鉛筆などで型を取り、はさみでタコを切り抜く。
- 凧の表面（ツルツルした面）に、文字を書いたり絵を描く。
- 凧の横方向に竹ひごをあて、はみだした部分をはさみで切り取る。
- 凧の裏面に、凧の縦横に合うように長短の竹ひごを十文字に置き、凧の四隅で竹ひごの端を包み込むようにセロテープで固定する。
- 竹ひごの交わった部分を、１mの凧連結用のたこ糸の中ほどを使って固結びでしばる（結び目が１mのたこ糸の真ん中になるように注意する）。
- 凧の真ん中に穴をあけ、凧連結用のたこ糸の片方を表面に通す。
- 凧の補強のため、竹ひごの交わった部分と端の中間あたりを、セロテープでタコに張り付ける。
- 凧の表面下側のＶ字部分に新聞紙のしっぽをテープで止めて完成。

～ここまで、凧２つ分作業する～

- 出来上がった２つの凧をそれぞれの凧連結用たこ糸でつなぎ、手前の凧には持ち手に巻いた揚げ糸をつなぐ。いずれも片花結びでつなぐと、タコを追加するときにほどきやすい。

④　凧あげ競争（残りの時間）
⑤　終わりのあいさつ

＜あげているところ＞

9　備考
凧が良くあがるようにするには、どのような工夫をしたら良いか考えてみる。